

# 興味関心を持たせるための教材の工夫 ～古典『おくの細道』のデジタル化を通して～

南風原町立南風原中学校教諭 崎 山 泉

## I テーマ設定の理由

### 新学習指導要領における古典の位置づけ

いまなぜ  
古典か

平成20年1月に中央教育審議会答申が出され、改善の基本方針の中で古典教育重視が明確に打ち出された。

国語科については、伝統や文化に関する教育の充実という観点から、グローバル化の中で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々との共存のために、自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることの重要性が示された。

中でも、古典を中心とする伝統的な言語文化を理解・継承し、新しい文化を創造・発展させることが国語の指導において欠くことのできないものとして位置づけられている。

### これまでの実践の課題から

中学1年時からの古典の授業を通し、生徒は様々な古典作品に触れてきた。その学習活動を通して、仮名遣いや古文特有のリズム、文末表現など、古文にもやや慣れてきた生徒であるが、古典学習に対する一人一人の興味・関心・学力等は様々である。

1年時には、初めて古典に出会い、興味を持って学習に取り組む生徒が多く見られた。しかし、他力本願的な学習や、授業者の援助や助言を待ってからの消極的な学習からなかなか抜け出せず、新たな古文を自力で読んでみる等といった、学んだことや身につけた力を積極的に活用しようとする姿勢はまだ十分みられるとはいえない。

また、1年時の学習を終えて、面白い、他の古典作品ももっと読んでみたいといった肯定的な感想を持っている者もいれば、つまらない、難しい、読みづらいといった否定的な感想を持っている者もいる。後者の理由としては、古典独特の文法や難解な歴史的仮名遣い、古典単語の意味が読み取れないということ、当時の生活様式や文化的背景が今とかけ離れていて理解できないことなどが挙げられる。

これまで古典の学習を進める中で、こうした生徒の抵抗感をいかにして取り除き、古典の有効な学習方法をどのようにして体得させるか試行錯誤してきた。しかし、効果的な指導法や教材を組み立て実践することができずにいた。

### 本研究において

まず、古典に対して生徒個々の興味・関心・意欲を高めることは、自ら知識・理解を促し、ひいては自己学習力へと発展するものと考え。となると、一人一人を活かした多様な学習活動の設定を意識した教材研究の工夫が必要である。

そこで、本研究では現場の指導者と生徒の実態を把握し、そのデータを基に現場で必要とされる具体的かつ必要性の高い資料データを集め、作成する。その際、紙面による資料ではなく、教師および生徒がたやすく授業に活用でき、一斉授業だけでなく個別学習や発展的な学習にも活用できる幅広い授業展開が可能なデジタル化教材を作成し、使用する。また、教材を使用した授業展開アイデアを提案しつつ、授業検証データを取る。

以上のことから、幅広い資料と授業組み立てのできるデジタル教材を使用すれば、生徒の興味関心を高める手助けになるであろうと考え、本テーマを設定した。

## II 研究仮説と検証計画

### 1 研究の目的

興味関心を持たせるための教材工夫をすることにより、研究の視点1, 2を核にした古典学習を通して、その指導の有効性を確認する。

#### 研究の視点

1. 興味関心を持たせるための、デジタル教材の開発を実行する。
2. デジタル教材を活用した授業展開の工夫。

### 2 検証計画

	検証の場面	検証の観点	検証の方法
① 事前 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容：古典の授業に関するアンケート</li> <li>・調査方法：アンケート</li> <li>・調査時期：事前調査（10月下旬）</li> <li>・調査対象：島尻管内各市町村の中学校教師 31名 島尻管内各市町村の中学校 7校 3年生 242名</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートを実施し、実態を分析</li> </ul>
② 教材 作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料収集する際は、事前調査の結果をベースに組み立て収集および編集する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に連載されている文章や場面箇所を分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書物等による検索分析</li> <li>・現地調査による資料収集</li> </ul>
③ 検証 授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>展開（PCを活用し実践する）</li> <li>・検証授業（本人）2回</li> <li>・検証授業（依頼）4回（佐中・与中・南風中・渡名喜中）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化された教材は役に立ち、実際に興味関心を高めることができたか。</li> <li>・デジタル教材を活用した授業は時間的に効果的だったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・授業後のアンケートの分析</li> </ul>
④ 事後 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容：古典の授業に関するアンケート</li> <li>・調査方法：アンケート</li> <li>・調査時期：事後調査（1月下旬）</li> <li>・調査対象：島尻管内各市町村の中学校教師 30名 島尻管内各市町村の中学校 4校 3年生 103名 " 1校 2年生 71名</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証授業後のアンケートの分析（比較調査）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化された教材を取り入れた授業を実施することで、興味関心をもって古典の授業に臨むことができたか。</li> </ul>		①②③④の結果

## III 研究内容

### 1 興味関心を持たせる古典指導とは

規工川佑輔氏  
による  
古典教育の  
推移

#### (1) 古典教育の推移に見る

戦後の古典教育の推移をたどってみると、かなりの変遷があり今日に至っている。何しろ戦後は、「中学校の国語教育は、古典の教育から解放されなければならない」（昭和22年学習指導要領）という状態からスタートしている。それが「基本的なものに適宜触れさせ、古典に対する関心を持たせる」（昭和33年）から「古典として価値のある古文と漢文を理解する基礎を養う」（昭和44年）と発展し、

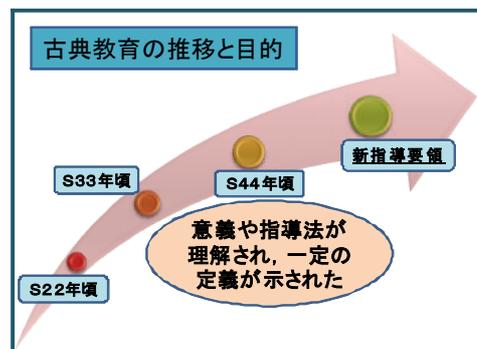


図1 古典教育の推移と目的

教材も明らかにされた。

それ以降は古典学習の比重も高められた。昭和40年代は古典教育に関する議論が高まり、中学校における理論と実践が多く発表され、図書が相次いで刊行されたのも昭和40年後半から50年の初めにかけてであった。

それ以後古典教育の意義や指導法が広く理解され、一応の定義を示したかの感があった。しかしながら、中学校における古典教育は、現場の教室では、いまだに幾多の問題をかかえており、ある点ではマンネリ化しているのではないかという悲観的な見方さえ生じてくる。

## (2) 古典に関心を深める

活字離れが進んでいる。ただでさえ、文語ということばで書かれている古文は読みの抵抗が強い。しかも昔の人のものの考えや感じ方に現代の中学生が自然に食いついていけるかどうか。古典の教材や学習時間は少ない。こういった条件や言語環境のなかで、古典教育をどう進めたらいいのか。

一言で言えば、中学校の古典教育は①古文や漢文を理解する基礎を養い、②古典に対する関心を深めることだ。現代語訳文でもいい、古典に関する解説文や読み物でもいい。とにかく古典に関心をを持たせるきっかけを作ってやり、古典に親しみを持つ態度を養うことであると言える。生徒が古典の原文の読みに慣れ、古文の持つ響きを体感的に読み取り、そこに流れているものの見方や考え方を理解することができることが究極の目標であろう。

そこで、中学生が古典に対して興味・関心を深めるためにはどのような指導法を用いたらいいのか。古典教育の原点に立ちかえり、実践と研究の追求が必要になる。

古典に食いつかせるためにはどんな配慮をしたらいいのか。古典に対する関心を深めるとはどんなことなのか。

関心について考えてみよう。関心と言えば、能力とは直接結びつかず、むしろ態度に関わる部面が大きい。また、国語に対する興味や関心というように、関心は興味と並べることが多い。『中学校国語指導事例集 態度に関する指導』の解説によると、

興味とは

「興味は生徒が自発的に学習するための基本的な力を持つものとして重視される。」とし、「興味は、生徒が自発的に、対象に強い情緒的な働きかけをするものとみなされている。」とある。ある対象に対する積極的・選択的な心構えで、情緒的緊張を伴う。いわゆる教材に対する好き嫌いの反応などはこの興味と言えよう。

関心とは

一方、関心は「興味が働きかける対象よりももっと広く、ある領域に対して静かに永続的に働きかけるものとしてとらえる。」「また関心は、これを教育する立場から、価値のある対象に接近する構えとして位置づけ、しかも学習経験によって獲得されるというように意味づけることもある。」と述べている。

要するに、古典を学習することによって、古典に心が働き、新たな目で見直し、もっと読みたいという意欲がわくことである。古文の持つリズムに慣れ、表現される文体に目を向けることもあろう。あるいは、内容を読み味わいながら、古典的な世界のものの見方、考え方、感じ方に新たな発見や驚きを見出すこともあろう。こういうことが古典に対する関心を深めることになる。そして、生徒たちが古典からひき出すおもしろさは、現代の世界にはない昔の人々のものの考えであり、同時に、時代を超えて現代にも通じる人間の在り方のおもしろさである。

生徒の読書の実態からしても、文学面に限れば外国物が多く、日本の古典はさっぱり読まれない。それは好ましい傾向とは言えない。古典の学習することにより、日本にもこんなすぐれた古典の世界があったのか、現代文学や外国文学を読むのと同じような意欲を持って日本の古典を読もうという積極的な態度を養いたいものである。

関心を持たせる  
具体的な方法

(3) 古典に関心を持たせるには

古典に関心を持たせるための具体的な方法としてはどんなことが考えられるであろうか。次の4つの基本的な指導法をかかげ(図2)、その具体的な授業方式を考えてみたい。

① 基礎的な読解力の習得による指導法

まず古典が正しく読めることである。原文が読めないで、古典に対する関心や興味が深まるはずがない。古典の文章では、声調の美しさやリズムのおもしろさなど、音声としての特徴を見逃してはならない。そのためには、音読がまずできることである。

② 古典的な雰囲気の世界に誘い入れる指導法

古典的な雰囲気を醸し出し、古典を身近に感じさせることは、古典に関心を持たせることに役立つことが多い。郷土の古典にゆかりのある地を巡ったり、郷土に関連のある古典あるいは民話、民謡などを利用したりして方法はいくらかもある。

③ 古典との対話を主体とする指導法

問題意識や課題を持って古典の読みを深めることである。生徒自らの主体的学習態度を形成してやり、古典の世界に表れているものの見方や考え方、感じ方に積極的に反応することである。それは共鳴・共感という形で作用することもあるし、反発・批判という形で作用する場合もある。古典という世界の中から生徒が据え得るものは鋭い感受性であり人間性に富む考え方である。

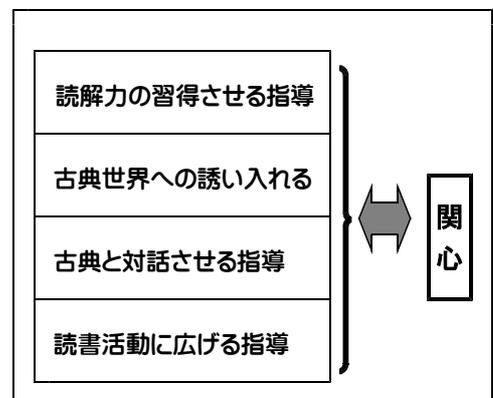


図2 関心を持たせる4つの指導法

④ 古典に関するものや古典を読書活動に広げる指導法

古典という教材に永続的で静かな関心を持たせるためには、どうしても読書活動と結びつけなければならないように思われる。古典に親しむためには、必ずしも原文主義に立脚することもあるまい。古典に関する解説文、現代語訳文などでもいい、読んでいるうちには、おのずから原文を読みたいという気持ちにもなるものだ。

まず、教科書教材と関連した補助教材を準備したい。この補助教材で学習の手助けや図書案内の役割を果たすことができ、調べ読みの技能を高め、読書への関心を持たせ、ひいては古典に親しませることができるのである。次に、古典について適書を紹介してやることである。さらに、創造的な読みの態度を養いたい。

なお、これ以外にもスライドや録音教材を利用して視聴させることも効果がある。

2 古典教育の意義

古典の  
メリット

中学生に古典教育を行なわなければならない理由とは、何だろうか。文学作品ならば、近代・現代にも優れたものが数多くある。また、伝統文化を享受するだけならば、あえて原典に触れなくても構わないのではないか。

現代とは異なる単語・文法によって書かれた文章を読むことは、大人にとっても難しいことである。それを中学生に学校で読ませることには、一体どのようなメリットがあるのだろうか。

『国語教材研究シリーズ⑨ 古文(散文)編』のなかで、安西迪夫氏は古典教育の意義について以下のように述べている。

安西迪夫氏による見解

古典は、それぞれの時代や社会や人間や風俗や自然を、純粹の典型にまで高めて表現しているがゆえに、その生命を長らえてきたのである。そこでとらえられたものは、現代とは程遠い感じではあっても、あるいは例外的な状況を表わしているように見えても、時間を超越した普遍性を獲得しているがゆえに、いかなる時代も読者の心をとらえてきたのである。つまり、古典を読解し鑑賞する能力を高めるといことは、現代文明によってできたものをとらえることが可能となり、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができるようになり、現代に生きる人間のあり方を、幅広くかつ深く考えられるようになるということである。

つまり、現代社会をよりよく生きるために、古典は必要だということではないだろうか。長尾高明氏は『古典指導の方法』のなかで、「ある時代背景のもとで、人々が何を見、何を考え、いかに生きたか、というさまを、こころの記録である文学作品を通して読み取ること、それが結局は、現代という状況における自分たちの生き方を観察し考察する目を養うことにもなるのである」と述べている。

### 3 学校現場の実態から

#### (1) アンケート結果

教師の実態

#### ① 指導者側の実態 (アンケートは管内国語教師31名対象による)

生徒を古典嫌いにさせているのの理由として、古語の意味や動作の主体のわかりにくさや省略の多さ等からくる内容のわかりにくさが挙げられる。

その抵抗感を払拭するための対策の一つとして、音読・朗読などを中心とした授業展開を取り入れ、音のもつ響きや日本語特有の韻やリズム等の言語文化の魅力に気づかせる工夫がなされているようだ(図1)。

しかし、教師自身が古典に対し思い入れが深いにも関わらず(図2)、生徒が古典授業に興味関心をさほど示さないという皮肉な結果が出ている(図3)

その原因として考えられることは、図4、図5からも分かるように、生徒の実態をおさえつつもじっくりと取り組む時間的問題や、教科書だけでは十分ではないと分かっているが関連資料等をうまく収集できない、また効果的に活用できない、視聴覚機器等を上手く活用した授業展開の工夫が不十分であるという理由が考えられる。

教科書のみでの指導で終わるのではなく、現代語訳や解説、その他の資料などを幅広く活用し、生徒がもっと積極的に古典の世界に親しむことを目指したい。

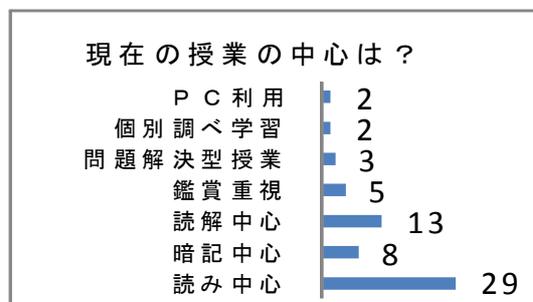


図1 現在の古典授業の中心は？ (教師結果)

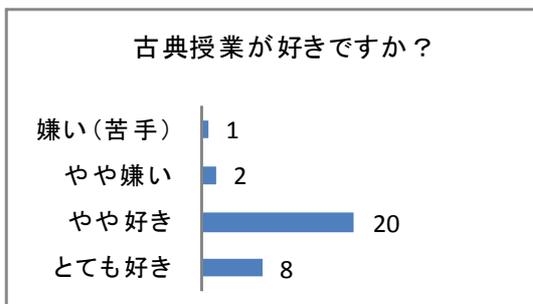


図2 あなた自身古典授業は好きか？ (教師)

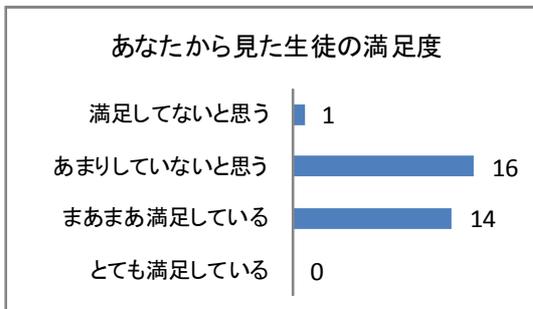


図3 古典授業において教師から見た生徒の満足度は？ (教師アンケート結果)

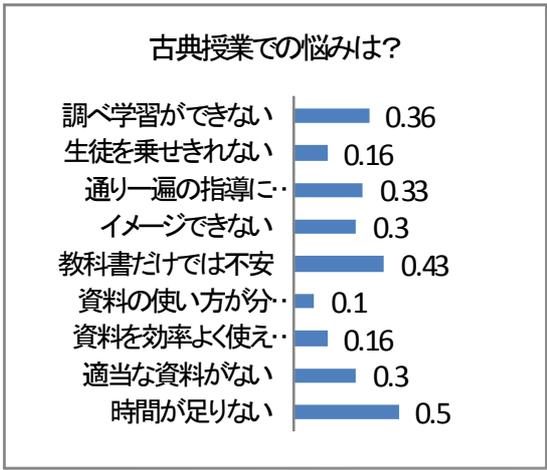


図4 古典の授業をする際の悩みは？  
(教師アンケート結果)

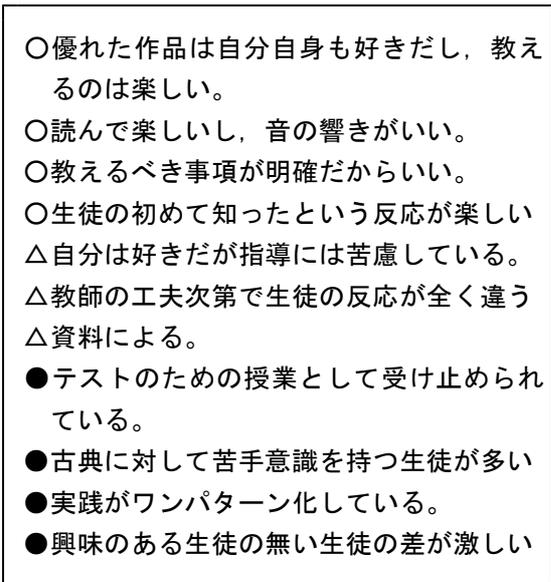


図5 古典授業における教師側の感想  
(教師アンケート結果)

② 生徒側の実態（アンケートは結果は管内中学校7校 232名対象による）

1年次の学習で、歴史的仮名遣いに対する知識に基づいて古典を繰り返し音読するおもしろさやその学習の意義を体験的に学んだ生徒にとって、次に学習すべきことは、古文歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことである。

古典的仮名遣いが難解なため音読しづらいといった抵抗感は、原文を繰り返し音読し、古文独特のリズムに慣れることでだいぶ薄れてくる。

今回のアンケート結果からも見えてきたが、生徒自身は古典そのものが嫌いなわけではないようだ。(図6)

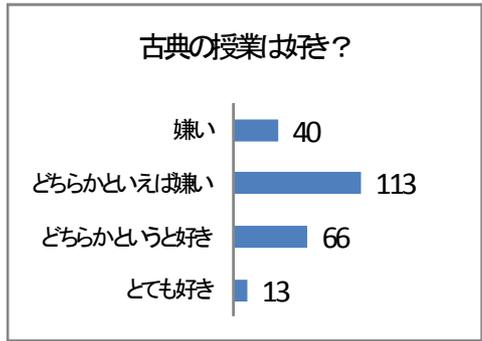


図6 古典の授業は好きでか？  
(生徒アンケート結果)

独特のリズムや音の響きは好きだと感じている生徒も多く、昔の人々の感性や生き方に興味を抱く生徒も少なくない。ただ、学年を上るに従って難解になる語句の理解不足、そこから起こる拒絶感、また状況把握ができないままに進んでいく授業に対する不満等が重なり、古典嫌いが多くなり、二極化が始まる(図7)。

そこで指導者は、必要に応じて教科書などの補注や現代語訳を参考にすることはもちろん図や絵、関連資料等を積極的に提示したり、解説を補足するなどして、古典単語や文化的背景が理解しにくいといった生徒に対応の工夫をしている。しかし、一方的な受け身でなく、文章独自の面白さや古典世界を自発的に学ぶ姿勢がなければ、完全に抵抗感がなくなった(古典が好きだ、得意だ)とはいえない。

そこで、生徒の要望を汲み取りながら(図8)、視聴覚的教材を積極的に活用した指導可能な、ゲーム感覚的に興味関心を持たせられる、かつ1単位の授業でも使用可能な資料活用を駆使した古典の授業を行うことができれば、生徒の古典嫌いや苦手意識の払拭につながるのではないだろうか。

- 昔の文章のリズム感がおもしろいから、古典はわりと好きだ。
- 昔の人の感性はすごい！
- 音読するのは楽しい！
- 昔のことばや使い方がとても好き。
- △意味が分かると楽しいと感じる。
- △昔の人の生活や習慣が分かるとより楽しいと思う。
- 内容が難しすぎて理解できない。
- 何をいっているのか意味が分からない。
- 訳ができない。
- 勉強方法が分からない。
- 古典ってなに？なぜ勉強するの？
- 読み取るのが難しすぎる。
- 想像ができない。
- 読むのが苦手。

図7 古典授業を通して、生徒が日頃感じていることは？ (生徒アンケート結果)

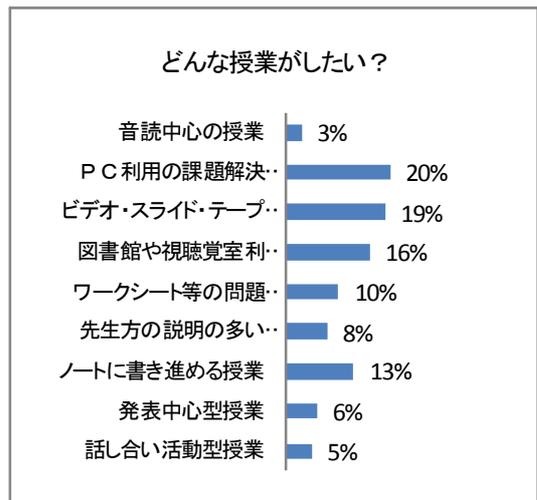


図8 どんな古典授業をして欲しい？ (生徒アンケート結果)

### ③ デジタル教材の良さ

- ・いくつかの課題を短時間で探求することが可能になる。
- ・黒板とチョークだけの授業に映像が加わることにより、目で見て楽しめる、想像力を喚起するような展開が可能になる。
- ・授業が生徒主体で展開される。
- ・主体的に学習に取り組むことにより、興味関心が高まる。
- ・コンピュータを使った作品の制作を通じ、内容理解を深める一助となる
- ・作成のために必要な素材をインターネット上で素早く検索でき、幅が広がる。
- ・個性豊かな作品が出来上がる。
- ・授業および個別で学習する上においても、反復学習が可能である。
- ・個に応じた学習が可能になる。

なお今回のデジタル教材作成は、幅広い古典教材の中から、長年にわたり教科書に出典され、一般的に著名でもある『おくの細道』を取り上げた。

## 4 本デジタル教材活用のメリット

上記に示されているデジタル教材の良さを生かし、本デジタル教材は従来の「知識理解」「受信・記憶型」中心の学習から、「発信・活用型」「批評・探求型」授業を展開するためのステップとして活用できる内容構成にする。

指導者の使い方次第で幾通りにも授業展開が可能になるようコンテンツを組み込む。そうすれば従来の型にはまった授業から脱出し、オリジナルな授業形態を組むことができ、生徒に文章の内容をより分かりやすく、より効果的に、より楽しく教えることができるであろう。本デジタル教材では、基礎基本で学ぶべき音読指導や読解指導もおさえつつ、調べ学習や課題解決学習にも活用できる幅広い内容にする。

3つの  
メリット

**メリット1 音声理解のための基礎基本 ～音読する力を鍛える～**

意味のまとまりごとに正確に音読ができることが基礎の基礎である。文脈に即して内容やキーワードも読み取れないままでは高度な活用・探求学習はできない。古典的な名文や詩を生徒に朗読させたり、暗唱させたりすることで生徒の熱中度は何倍にもなる。そのうえ、スピードのコントロールが自由自在にできることで、個々にレベルに合わせた「音読」指導が可能になる。

**メリット2 内容読解と新しい発見の働きかけ ～口語訳する力と探求する力～**

古語の意味が分からないと古文の内容を理解することは困難だ。何となく意味はつかめても解釈ともなるとできない。そこでここでは、文章中を一文ごとに区切り、口語訳を付ける。そうすれば、難解語句の意味を理解することができる。また前後の文章をつなげながら読んでいくことが可能になる。

また、関連資料で調べることによって、教科書教材にはない情報も理解できる。情報の新しさが読み手の興味を引いたり、その人なりのキーワードを見つける手助けにも成りうる。映像を見ただけで、どんな説明よりもよく分かることもある。

**メリット3 ゲーム感覚で知識習得できる ～クイズに挑戦＝暗記力～**

テストに出題される内容だけを必死に暗記する生徒は少なくない。だから時期が経つと忘れてしまうことが多い。せつかくの古典のおもしろさや知識をもっと楽しく覚えられないものだろうか。そこでここでは、主に暗記して欲しい事柄やエピソードをクイズ形式で出題し、挑戦できるようになっている。不正解の場合には、解答（解説）を読んで再度チャレンジすることも可能である。

IV 検証授業

本デジタル教材活用による検証授業

学年・教科・単元等

校種・教科・学年	中学校：国語：3年
単元・教材名	言葉を読み継ぐ 「おくのほそ道」 松尾芭蕉 (教育出版)
単元・教材の目標	芭蕉の生き方を通して、古典を身近に感じてみよう。

授業の概要

授業の概要	<b>導入扱いの授業で実践する場合</b> ① 第1次として、松尾芭蕉についての人物像を調べさせたり、「おくのほそ道」がどんな内容かを教材を通して学習する。 第2次は、音読学習。第3次は口語訳または調べ学習でも展開できるであろう。
	<b>発展的授業で実践する場合</b> ① 内容をすべて学習した後に個別学習で扱うことができる。 例えば、個々の調べ学習として、または復習するための1時間としての活用も可能である。
授業場所	コンピュータ教室
活用機器	コンピュータ、プロジェクター、デジタル作成教材
授業形態	一斉または個別
活用場面	導入／発展
活用目的	課題の提示／動機付け／学習の定着／知的好奇心の拡大

## 本時の学習指導案

1 教材名 言葉を読み継ぐ 『おくのほそ道』 (松尾芭蕉)

2 教材について

### (1) 教材の特徴の把握

「おくの細道」は、紀行文の最高峰をなす文学作品である。教科書に取りあげられている冒頭部では、和漢混交文と対句の流れるような文章の中で、芭蕉の旅への明確な考えと、旅に出ずに入られない熱い思いに触れることができる。

また、自然や行動などに対する巧みな描写により、俳句に込められた思いがいつそう豊かにイメージされ、作者の心を強く揺さぶる。生徒が昔の人の思いを想像し、古人と語り合うことのできる、「文学作品としての古典の味わい」に触れることのできる優れた作品である。

また、今回は、「古典に対して生徒個々の興味・関心・意欲を高めること」＝「自らの知識・理解を促し、ひいては自己学習力へと発展するもの」と考え、教科書のみの指導にとどまらず、教師および生徒が容易くかつ発展的に授業に活用できる幅広いデジタル化教材を作成し、活用しながら作品に迫りたい。

### (2) 指導観

生徒にとって、古典教材は言葉のまとまりとして認識しにくいので「難しい」となってしまう。しかし、古文は日本語であり、現在使われていない言葉はあるものの現代文に共通する要素は多い。古文が言葉のまとまりを意識して、すらすら読めるようになれば自ずと現代語と共通する言葉を見出すことができ、内容理解もしやすくなると思われる。

そこで、生徒も取り組みやすい「音読」という活動を取り入れた。教師の範読や一斉音読し練習することも大切であるが、デジタル教材を活用しながら自分なりのペースで反復し「音読」することで、個々に応じた読みの練習も可能となるであろう。

また、中学校最後の古典教材でもあるので、音読だけでなく、古人の人生観についても考えさせていきたい。芭蕉が旅の中で目にしたものとそれに対する感慨を視覚的にとらえ感じさせ、芭蕉の思想に迫っていきたい。

### (3) 期待する生徒の変容

事前に実施したアンケートによる意識調査では、古典が「嫌い」「あまり好きではない」生徒が約6割もいるという結果が出た。これは、学習指導要領に示されている「古典に親しむ態度を育てる」という留意事項がほとんど実現できていないということの意味する。

指導を行う上では、古典としての教材を取り上げながらも、現代文と同じように読ませることを基本姿勢とする。そして、作者の思いが込められた作品中の言葉を絞り込み、それを中心として作品全体を読み味わうことを通して、作者の思いに共感できるようにしたい。

また、デジタル教材を活用し授業に臨むことで、抵抗感なく作品や作者の思いを多面的に実感できるようにしたい。

## 3 学習指導目標

- (1) 本文を音読することによって、古文独自のリズムや現代仮名遣いの知識を身につけることができる。
- (2) 芭蕉の思いを心に描きながら、声に出したりして、読み味わうことができる。
- (3) 芭蕉の見た物や感じたことを知ることを通して、古人の人生観を自分なりに見つめ直すきっかけとする。

#### 4 学習指導計画

- 事前授業として (1時間設定) 主に概要把握と音読指導

	学習内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松尾芭蕉について知っていることを交換しあう。</li> <li>・「おくの細道」についてデジタル教材で学習する。(時代背景・距離・目的地・エピソード等の説明)</li> <li>・デジタル作成教材を使って、原文を音読して文章に触れる。(全体読み・一人読み)</li> </ul>

- 発展授業として (それぞれ1時間設定) 主に振り返り学習として

	学習内容
A	・教科書で学習した後、各自がもっと知りたい課題等をデジタル作成教材を活用して課題追求していく。
B	・個別に再度、復習として学習したい課題をもってデジタル作成教材を活用する。(読みを重点として/口語訳を重点として/内容読解を重点として)

#### 5 本時の授業仮説

デジタル作成教材を活用した授業を展開することで、

- (1) 苦手意識の高い古典教材(おくの細道)に対し、興味や関心をもって、学習に臨むことができるであろう。
- (2) 教科書だけではわからない芭蕉の生涯、俳句にかかわるエピソードなど、様々な角度から「おくの細道」や松尾芭蕉について興味をもって理解を深めることができるであろう。
- (3) 意欲的に「音読」する態度が見られるであろう。

#### 6 本時の授業展開(導入扱いとしての授業実践の場合)

##### (1) 目標

- ① 古人のものの見方や考え方、旅する心情に触れることにより、古典に対する興味や関心をもつことができる。
- ② 歴史的仮名遣いやアクセント、古文特有の表現の特徴に注意しながら、意欲的に音読することができる。

##### (2) 展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点	検証の観点と方法
導入	1 これまでに学習してきた古典教材について出し合う。 本時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に対する意識(意欲)を把握する。学習前から苦手意識をもたせないよう配慮しつつ、1年から既習した教材内容をざっくりばらんに発表させる。</li> <li>・古典を学習する意義を軽く触れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に対する興味はどの程度か把握する。</li> </ul> <p><b>観点①</b> 関心度を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"><b>観 察</b></div> <p>※授業の終わりにどう変容しているかを確認する</p>
7分	2 松尾芭蕉について知っていることを話し合う。  3 「おくの細道」について知っていることを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書をよくする生徒をうまく活用できるようにしたい。</li> <li>・疑問等が出た場合は、後に発展課題として調べられるようメモさせる。</li> <li>・興味をもたせるよう生徒から出た発言をうまく広げたい。</li> </ul>	



展 開	4 デジタル作成教材を活用し、松尾芭蕉と「おくの細道」の概要を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは一斉に学習させたい。気になる点や追求したいことがあれば後に調べるよう指示する。</li> </ul>	<b>観点②</b> デジタル教材を使用することで意欲的に学習しているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"><b>観 察</b></div>
	33分 5 デジタル作成教材を活用し、本文の「旅立ち」の部分の音読練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度の概要をつかんだら、本文に入り、読みの練習をさせ文章に触れさせる。 (ここでは一斉から個別にする)</li> </ul>	<b>観点③</b> デジタル教材を活用して自分なりの読みに挑戦しているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"><b>観 察</b></div>
ま と め 10 分	6 本時の学習の目標を確認し、自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル作成教材を活用して、これまでの古典の授業とどう違っていたかを把握する。</li> <li>自己評価を分析し、次時につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの資料を活用しているのか観察する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間に余裕のある生徒には、自由にデジタル教材を活用させる。</li> </ul>	

### (3) 評価

① 興味関心をもって、新しい古典教材「おくの細道」を学んでいたか。

- ・松尾芭蕉の人物像をつかむことができた。
- ・「おくの細道」の概要を自分なりにつかむことができた。
- ・次時につながる意欲(関心)をもつことができた。

② デジタル教材をうまく活用しながら、自分なりに音読することができたか。

## 7 授業仮説の検証

授業仮説について、観察者から見た評価および生徒の自己評価、アンケートから評価をまとめ考察する。なお、観察者の評価はあらかじめ生徒一人一人の実態を把握し、それを基本データとした上で、本授業の評価を行うものとする。

表1 観察者から見た評価の観点と規準

観 点	評 価 規 準				検 証 方 法
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C やや努力を要する	D 努力を要する	
①興味関心をもって古典教材に授業に臨んでいるか。	・過去の古典教材の内容を覚えており、積極的に話し合いに参加している。	・ある程度の内容を覚えており、話し合いに参加している。	・覚えていないがやや興味を示し授業には参加しようとしている	・古典が嫌いで、授業にも全く興味がない。	観 察
②松尾芭蕉・おくの細道について関心をもって学んでいるか。	・積極的に発言や質問をしながら意欲的に授業に臨んでいる。	・教師の話に興味深く聞きながら授業に臨んでいる。	・自分の興味のある話(内容)は、聞いている。	・聞く耳をもたず教材も見ようともしない。	観 察
③デジタル教材をうまく活用して音読に臨んでいたか。	・積極的に教材を活用しながら、音読練習している。	・教材を活用しながら、自分なりのペースで音読練習している。	・教材を上手く活用できないが、やろうとする姿勢は見られる。	・教材にも音読にも興味を示さず活動もしない。	観 察

表2 観察者から見た評価結果

	検証前の結果	検証後の結果
①興味関心をもって古典教材に授業でいるか。	A ( 7 人 ) B ( 14 人 ) C ( 13 人 ) D ( 1 人 )	A ( 18 人 ) B ( 14 人 ) C ( 3 人 ) D ( 0 人 )
②「松尾芭蕉」「おくの細道」について心をもって学んでいるか。	既習前の学習のため評価データなし	A ( 11 人 ) B ( 24 人 ) C ( 0 人 ) D ( 0 人 )
③デジタル教材をうまく活用しながら読に臨んでいるか。	A ( 10 人 ) B ( 9 人 ) C ( 5 人 ) D ( 1 人 )	A ( 19 人 ) B ( 14 人 ) C ( 2 人 ) D ( 0 人 )

### ■本時の授業仮説の結果から

「興味関心をもって授業に臨んでいる」生徒の数値が、検証前と比較するとAとBの値が1.7倍増加した。

知識理解の内容においても、教科書で既習する前の生徒であったにも関わらず、ほぼ全員の生徒が関心をもって学んだという結果が出た。

音読に関しては、2人を除いてはデジタル教材を活用しながら積極的に音読していたという結果が出た。

以上の結果から、本時の検証授業における検証の結果から、デジタル教材を活用した授業は授業仮説(1)(2)(3)を達成できたということがいえる。

## V 研究の結果と考察

研究仮説の考察は、まずデジタル教材を開発し検証授業を行い、その生徒アンケート結果から事前事後の比較と、島尻管内各市町村の中学校教師30名を対象に行ったアンケート結果を基に行う。

### 1 開発したデジタル教材について



本デジタル教材は、芭蕉が旅した「おくの細道」の行程から5カ所（江戸・松島・平泉・山形・岐阜）に絞り込み、実際に現地踏査し、そこで集めた資料や写真を基に作成した。

構成は、「音読コース」「口語訳コース」「資料コース」「クイズコース」の4つに分けてあるので、自由に選び学習することが可能である。

さらに各コース、章単位に区分してあるので、単独での学習もできる。



#### 音読コース

- ・クリックすると原文にそって音声が出るようになっている。また音声と同時に文字が赤く変わるように工夫されている。自分がどこを読んでいるのかが目で追うことができる。



#### 口語訳コース

- ・原文を上段、現代語訳を下段にして表記した。その際、一文ごとに開いて訳が分かるように工夫した。脚注も付けてある。



#### 資料コース

- ・現地踏査での資料や写真、教科書に連載されていない裏話や人物像など、調べ学習や発展学習でも使えるよう作成されている。



#### クイズコース

- ・覚えて欲しい内容を○×のクイズ形式で出題してある。

## 2 検証授業（全6回）による生徒アンケート結果から

※デジタル教材を活用した授業

※各評価項目のA=とても良く分かった（とても良くできた） B=まあまあ理解できた（努力した）

C=何となく分かった（いつもと変わらない） D=あまり理解できない（あまりやらなかった）

E=全く分からなかった（全くしなかった）

	① 発展型授業として活用 佐敷中3年5組 (知花綾子教諭協力)	② 発展型授業として活用 与那原中3年5組 (高宮城成子教諭協力)	③ 発展型授業として活用 南風原中3年5組 (赤嶺直子教諭協力)																																																															
古典授業は好き？	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	E	人数	前	1	4	20	5	4	34	後	1	20	10	3	0	人	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	E	人数	前	1	6	11	10	4	32	後	2	16	11	2	1	人	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>6</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	E	人数	前	2	6	17	8	1	34	後	6	21	6	1	0	人
	A	B	C	D	E	人数																																																												
前	1	4	20	5	4	34																																																												
後	1	20	10	3	0	人																																																												
	A	B	C	D	E	人数																																																												
前	1	6	11	10	4	32																																																												
後	2	16	11	2	1	人																																																												
	A	B	C	D	E	人数																																																												
前	2	6	17	8	1	34																																																												
後	6	21	6	1	0	人																																																												
意欲度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 29 人</li> <li>・変わらない 4 人</li> <li>・下がった 1 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 26 人</li> <li>・変わらない 3 人</li> <li>・下がった 3 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 34 人</li> <li>・変わらない 0 人</li> <li>・下がった 0 人</li> </ul>																																																															
知識	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	9	17	6	1	0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>14</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	5	14	8	5	0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	8	16	9	1	0																																	
A	B	C	D	E																																																														
9	17	6	1	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
5	14	8	5	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
8	16	9	1	0																																																														
音読	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">測定なし</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	測定なし					<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">測定なし</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	測定なし					<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">測定なし</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	E	測定なし																																					
A	B	C	D	E																																																														
測定なし																																																																		
A	B	C	D	E																																																														
測定なし																																																																		
A	B	C	D	E																																																														
測定なし																																																																		
生徒の意見や感想	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> テスト前に使いたい。</li> <li><input type="checkbox"/> 操作が簡単でいい。</li> <li><input type="checkbox"/> 音読は何度も聞けるし覚えられるからいい。</li> <li><input type="checkbox"/> 写真はイメージしやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 資料が豊富で分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> クイズが分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 説明が分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 地図がいい</li> <li><input type="checkbox"/> 写真が豊富でもっと勉強したいという気持ちになった</li> <li><input type="checkbox"/> 初めて分かったことがある。</li> <li>■ クイズをもっと増やして。</li> <li>■ 説明が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 音読が分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> クイズがためになった。</li> <li><input type="checkbox"/> テストに役立つ。</li> <li><input type="checkbox"/> 解説で分からなかった点があった。</li> <li><input type="checkbox"/> 写真が分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 国語の授業が楽しくなる。</li> <li><input type="checkbox"/> 反復できるところがいい。</li> <li><input type="checkbox"/> 国語の授業が楽しくなる。</li> <li>■ 音読は少し遅いと感じた。</li> <li>■ 解説が少し難しい。</li> <li>■ 教科書の方がいい。</li> <li>■ パソコンだと遊ぶかも。</li> <li>■ ノートを使いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 選択肢が良かった。</li> <li><input type="checkbox"/> 調べようとしたことが解決できた。</li> <li><input type="checkbox"/> 知識が増えた。</li> <li><input type="checkbox"/> 以前と比べて興味が沸いた。</li> <li><input type="checkbox"/> 余話が意外とためになった。</li> <li><input type="checkbox"/> 資料が多くて良かった。</li> <li><input type="checkbox"/> 嫌いな人は寝ないでいける</li> <li><input type="checkbox"/> 個人のペースでできるから、勉強がしやすくなる。</li> <li><input type="checkbox"/> 楽しみながらできる。</li> <li><input type="checkbox"/> 人物像について理解できた。</li> <li><input type="checkbox"/> 写真付きはイメージしやすくよい。</li> </ul>																																																															

	④発展型授業として活用 渡名喜中3年1組 (外間牧乃教諭協力)	⑤導入扱い型授業として活用 南風原中2年3組 (本人授業)	⑥導入扱い型授業として活用 南風原中2年1組 (本人授業) 本時																																																															
古典授業は好き？	<table border="1"> <tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr> <tr><td>前</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr> <tr><td>後</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>人</td></tr> </table>		A	B	C	D	E		前	1	1	1	0	0	3	後	1	2	0	0	0	人	<table border="1"> <tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr> <tr><td>前</td><td>1</td><td>7</td><td>20</td><td>5</td><td>2</td><td>35</td></tr> <tr><td>後</td><td>5</td><td>21</td><td>8</td><td>1</td><td>0</td><td>人</td></tr> </table>		A	B	C	D	E		前	1	7	20	5	2	35	後	5	21	8	1	0	人	<table border="1"> <tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr> <tr><td>前</td><td>2</td><td>8</td><td>6</td><td>11</td><td>8</td><td>34</td></tr> <tr><td>後</td><td>4</td><td>19</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>人</td></tr> </table>		A	B	C	D	E		前	2	8	6	11	8	34	後	4	19	8	2	1	人
	A	B	C	D	E																																																													
前	1	1	1	0	0	3																																																												
後	1	2	0	0	0	人																																																												
	A	B	C	D	E																																																													
前	1	7	20	5	2	35																																																												
後	5	21	8	1	0	人																																																												
	A	B	C	D	E																																																													
前	2	8	6	11	8	34																																																												
後	4	19	8	2	1	人																																																												
意欲度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 3人</li> <li>・変わらない 0人</li> <li>・下がった 0人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 35人</li> <li>・変わらない 3人</li> <li>・下がった 3人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップした 34人</li> <li>・変わらない 0人</li> <li>・下がった 0人</li> </ul>																																																															
知識	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	3	0	0	0	0	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>10</td><td>15</td><td>9</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	10	15	9	1	0	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>7</td><td>19</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	7	19	8	0	0																																	
A	B	C	D	E																																																														
3	0	0	0	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
10	15	9	1	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
7	19	8	0	0																																																														
音読	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	0	3	0	0	0	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>4</td><td>25</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	4	25	6	0	0	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>8</td><td>24</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	8	24	1	1	0																																	
A	B	C	D	E																																																														
0	3	0	0	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
4	25	6	0	0																																																														
A	B	C	D	E																																																														
8	24	1	1	0																																																														
生徒の意見や感想	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 写真や説明，口語訳がついているところがとても分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 作者の心情を考え，知ることができた。</li> <li><input type="checkbox"/> 音声と一緒に読みの練習ができるところがとてもいい。</li> <li><input type="checkbox"/> 読めない点は何度も練習した。</li> <li><input type="checkbox"/> クイズが分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> 普通に授業するよりも楽しい。</li> <li><input type="checkbox"/> 自分のペースで進められるところが良い。</li> <li><input type="checkbox"/> 音声が出るところはいい。</li> <li><input type="checkbox"/> 作者の心情を考え，知ることができる。</li> <li>■ 音声がゆっくりすぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 教科書で学習するマンネリ化が解消できるから良い。</li> <li><input type="checkbox"/> 楽しくて分かりやすい。</li> <li><input type="checkbox"/> クイズがおもしろい。</li> <li><input type="checkbox"/> テスト前にやってくれると効果大だと思う。</li> <li><input type="checkbox"/> 3年で勉強するのが楽しみ。</li> <li><input type="checkbox"/> またやりたくなる。</li> <li><input type="checkbox"/> 教科書より詳しくて良い。</li> <li><input type="checkbox"/> 写真があるのは，イメージしやすくして良い。</li> <li><input type="checkbox"/> 文字が赤くなるところが良い</li> <li><input type="checkbox"/> 資料はどこが大事かわかる。</li> <li><input type="checkbox"/> 自分なりに操作できて勉強がしやすくなると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分のペースで進めるとさらに面白さは広がると思う。</li> <li><input type="checkbox"/> 資料や写真があるから教科書で習ってなくても興味が沸く。</li> <li><input type="checkbox"/> 3年で習うのが楽しみだ。</li> <li><input type="checkbox"/> 時間をかけて使用したい。</li> <li><input type="checkbox"/> 説明が分かりやすかった。</li> <li><input type="checkbox"/> 読み方が分かるから読める。</li> <li><input type="checkbox"/> クイズがとてもいい。</li> <li><input type="checkbox"/> これなら知らなくても興味がわく。</li> <li>■ パソコンで同じ調子で進めると眠くなるかも知れない。</li> <li>■ 自分で練習の時間とかを取って使えたらもっといいと思う。</li> </ul>																																																															

### (1) デジタル教材を活用した発展型授業と導入扱い型授業との違いはあったのか。

6回の検証授業のうち、4回は教科書で既習し終わった3年生を対象に発展型授業として実施した。一方、導入扱い型授業は、教材完成の時期と学校現場の授業実施時期とのズレが生じ、3年生を対象に授業することができなかつたため、やむを得ず未学習の2年生を対象に授業を実施した。

しかしアンケート結果からみて分かるように、発展型授業①②③④、導入扱い型授業⑤⑥のどちらにおいても、デジタル教材を活用した授業は従来の授業と比べて、古典に対する興味関心度は増し、意欲度もアップしたという結果が出ている。また生徒の意見や感想を比べても大差はない。よって、授業の導入扱いで活用しても発展型で活用しても、本デジタル教材は興味関心をもたせる上で有効であったといえるであろう。

### (2) 地域、規模、既習時期、指導者の違いが影響されるのか。

全6回のうち、4回を他教師の協力を仰ぎ検証授業を実施した。地域や学級規模、また生徒の既習時期、指導者も異なるといった条件での検証ではあったが、4校の結果を比較すると、どの項目においても似たような結果が出ている。よって、地域、規模、既習時期、指導者の違いに関係なく効果は一律であったといえるだろう。

### (3) 効果を上げた要因を分析（意見や感想を参考に）

1つ目に、視覚的な効果が大きいこと。時代や風習、風土等あらゆる面でイメージのしにくい古典的な背景を、写真や関係資料を関連づけて見せることで、抵抗感の強い生徒の苦手意識を払拭し、スムーズに教材世界へと誘い込めたからだと考えられる。



デジタル教材を活用した授業風景

2つ目は、音読部分に「音声」と「文字」の両方を取り組んだこと。現代仮名遣いと異なる言葉遣いを、耳からだけでなく同時に文章を目で追い確かめられることが、生徒の興味をそそぎ、音読しようという意欲高揚に繋がったようだ。

3つ目に、生徒自身が各々の課題追求のための手立てとして、「本デジタル教材が自主教材として効果的である」と判断してくれたこと。構成そのものを「音読」「口語訳」「資料」「クイズ」の4分野に分けたことによって、生徒の興味関心をもたせるために効果があったといえるであろう。

## 3 教師によるアンケート結果から

島尻地区管内の国語教師30名を対象に、作成した教材を配布し、「実際に活用できる教材であるか否か」また「どんな点が良くてどんな改善が必要であるのか」の2項目を中心にアンケートを実施した。

その結果、内容面や使用する上での改善点がいくつか挙げられたが、「実際に授業で活用できる」または「活用したい」という支持率が100%であった。そのことから、本デジタル教材は生徒に興味関心をもたせる上で効果的であるといえるであろう。

以上3つの結果と考察から、作成したデジタル教材を活用した授業実施は、生徒に興味関心をもたせる上で有効であったといえる。

しかし、興味関心の度合いを数値化して図ることは難しい。どの程度あったものがどのくらい変化すれば上がったといえるかは、授業者（指導者）の一貫した継続観察が必須である。また、単元や教材ごとに立てられた授業目標とリンクさせた、観察評価をする必要もあるだろう。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 作成したデジタル教材を活用した授業は、生徒の古典教材に対する抵抗感を払拭でき、興味関心を持たせる上で有効であった。 (V-2)
- (2) 現地踏査による資料や写真等を教材に組み込んだことで、中身の濃い教材を作成することができ、授業を実施する上でも効果的であった。 (V-1)
- (3) 現場の生徒や教師の実態を把握できたことで、実践に即したデジタル教材を作成することができた。 (III-3, V-1)
- (4) 音声画像とリンクさせたことにより、生徒の興味関心度はかなりアップした。  
(V-1)

### 2 今後の課題

- (1) 本デジタル教材を活用した、より効果的な授業の展開と工夫
- (2) 古典に興味関心をもたせる継続的な学習指導の工夫



#### — 主な参考文献 —

安西迪夫著	『国語教材研究シリーズ⑨ 古文(散文)編』	名桜楓社	1979年
長尾高明著	『古典指導の方法』	有精堂	1990年
國澤賢治 他	『古典に親しむ学習指導〔理解古典〕』	ニチブン	1997年
飛田多喜雄(序) 規工川佑輔(著)	『魅力ある古典の指導入門』	明治図書	1991年
久富哲雄 著	『奥の細道の旅ハンドブック』	三省堂	2007年
北嶋廣敏 著	『奥の細道を10倍楽しむ50の謎』	明治書院	2009年
宮腰 賢 著	『古文の基礎』	旺文社	1980年





